

文化財通信くまもと

第11号
平成8年3月
熊本県教育委員会



柳町遺跡出土木製短甲

「文化財通信くまもと」第11号は、平成6年度に文化財調査第2係が担当した開発事業関連の埋蔵文化財発掘調査のうち、主要な遺跡についての概要を取り上げています。

平成6年度は、大規模な事業に伴う長期間の文化財調査が多く、上の写真にある柳町遺跡の木製短甲をはじめ、たくさんの貴重な遺構、遺物が見つかりました。その一方、開発と遺跡保護の調和について、改めて考えさせられた年でもありました。

各遺跡の詳しい内容については、今後発行される各遺跡の調査報告書の中でお知らせする予定です。

やなぎまち
柳町遺跡（第1次調査）

所 在 地 玉名市河崎字柳町
調査面積 約3,000m²
調査期間 平成6年8月～平成7年3月

柳町遺跡は、「国道208号玉名バイパス」の予定路線地内にあたっていることから発掘調査が行われました。この遺跡は、水田地帯が広がる玉名平野のほぼ中央部にあたり、その東側・西側にはそれぞれ菊池川と繁根木川が流れています。

調査の結果、現在の水田面（地表面）から約1.5mほど下に、古墳時代前期の地形があり、その中で周囲よりわずかに高いところに、当時の人々の暮らした跡が見つかりました。住居跡からは、多くの土器のかけらと共に魚を捕るために使用されたと思われる土製の「おもり」や軽石でできた「浮き」などが出土しました。特に、井戸の中などから出土した木製品は当時の様子をうかがい知ることができる貴重なものばかりです。

さらに、その下の層からは、弥生時代の土器や木の杭列などが見されました。また、出土した量はわずかですが、奈良時代の土器のかけらも見られます。

木製短甲について

古墳時代前期の2号井戸内から出土した後胴の肩部分と背中部分にある木製短甲（1ページの写真）は、全国で初めての出土です。その特異な形や製作技法は、今まで全国で出土したものとは明らかに違うたいへん貴重な資料です。

多種多様の木製品

木製品は、土器・石器などと違って腐りやすく、なかなか現在まで残らないものです。しかし、低湿地に位置する遺跡の場合は当時のままの姿で保存された状態での出土が見られます。柳町遺跡においても田畠の開墾やあぜづくりなどの農作業に使用された「すき」や「くわ」、ワラなどをたたくための「木づち」、「しゃくし」や「さじ」などの食器、倉庫の柱にとりつけて穀物を食べようとするネズミなどの害を防ぐ「ネズミ返し」、「柱材」などの建築部材、大小多数の杭、狩猟や戦いに使用された「弓」などが総数にして約500点も出土しました。

なお、柳町遺跡の発掘調査は、次年度以降も引き続き実施される予定です。



遺構検出状況



住居跡内「浮き」出土状況



3号井戸内「しゃくし」出土状況



4号井戸内「ネズミ返し」出土状況

やまのかみ
山ノ神遺跡

所 在 地 熊本市龍田町上立田字古開山・天神免
調査面積 約3,000m²
調査期間 平成7年1月～3月

山ノ神遺跡は、熊本北高校の南東側の丘陵上にあり、熊本北バイパスの建設予定地にあたるため、発掘調査が行われました。その結果、古墳2基と石棺墓1基が見つかりました。

古墳は、とともに円形の溝で区画され、中心部に安山岩製の石棺がありました。石棺はかなり破壊されており、副葬品などはありませんでしたが、溝から高環や壺などの土器が出土し、その形などから、古墳時代の前期にあたるものではないかと思われます。

また、石棺墓は古墳の東側から見つかりましたが、石材、形などが古墳の石棺とよく似ているため、古墳と同時期のものではないかと思われます。

この遺跡からは、ほかに縄文時代の土器や石器なども見つかっています。



山ノ神遺跡（北より、奥は迫ノ上遺跡）

さこのうえ
迫ノ上遺跡

所 在 地 熊本市龍田町上立田字迫ノ上・高坂
調査面積 約3,500m²
調査期間 平成6年4月～9月

迫ノ上遺跡は山ノ神遺跡の南側にあり、同じく北バイパスの建設に先だって調査が行われ、古墳時代の竪穴住居跡が19基、掘立柱建物跡が1基見つかりました。

竪穴住居跡は「かまど」がついているものといないものの2種類に分けられ、見つかった土器などからついていないものの方が古いものと考えられます。このうち、5号住居跡は、一辺が10mをこえる大型のもので、「かまど」は有りませんが、3つの炉をもち、集会所的な機能を持っていた可能性もあります。また、「かまど」つきの8号住居跡からは鉄製の鋤先やヒスイ製の勾玉などが出土しています。

掘立柱建物跡は4×5本の柱の跡をもつ長方形の建物跡で、柱跡から出てきた土器から竪穴住居跡とはほぼ同時期のものと思われます。



5号住居跡（大型住居）



9号住居跡（「かまど」つき）

いし もと
石の本遺跡

所在 地 熊本市平山町字石の本・一の口
調査面積 約108,291m²
調査期間 平成6年4月～平成7年3月

石の本遺跡は、熊本市北東部の小山山の東側山麓の標高70～90mほどにある遺跡です。調査は、平成11年に開催予定の「くまもと未来国体」の主会場の建設にともなっておこなわれました。遺跡は、旧石器時代と縄文時代が中心ですが、弥生・古墳時代の遺物や古代以降の遺構も存在しています。

特に、旧石器時代の遺物は、九州最古段階のものとして注目されます。また、縄文時代後期末から晩期初頭にかけての住居跡群も、今後の研究において重要な発見例です。

旧石器時代

約3万年前の石器と当時の生活の痕跡がみつかりました。この年代は、石材を整形する際の技法や石器の形によって推定することができ、出土した地層や理化学的な方法によっても裏づけられています。

もっとも古い段階の石器群は、約900mのひろさにわたって、およそ5,000点が発見されました。これほど多量にこの時期の石器が発掘されるのは、全国的に珍しい例です。石器群が含まれていた赤褐色の地層は、約2万4千年前に降ったと考えられている「姶良・斧沢火山灰」よりも下に堆積しています。このことから、まず、約2万4千年より古い時代の道具であることが推測できます。

石器は、原材料である母岩から、ひとが道具として使用できる石器に製作するまでの技法が、それぞれの時期によってことなります。われわれは、出土した石器を細かく観察して、どのような技法でつくられたかを調べ、石器がつくられた時代をきめることができます。

今回、出土した石器の多くは、石の固まりである核を割って石片をつくり、その石片の両端を折り取るという技法がもちいられています。これは、約3万年前頃の特徴的な技法です。

また、局部磨製石斧とよばれる刃の部分を磨いてつくった石斧が1点出土しています。以上のことから総合的に判断して、石の本遺跡の石器群の時期を、九州最古の段階であると考えたのです。

また、もうひとつ重要な発見がありました。それは、この時代のひととが、



旧石器時代の石器(剥片石器・局部磨製石斧)



旧石器時代の石器（二次加工石器）

この土地で活動していた証拠がみつかったことです。南東部に張り出している微高地の基部で、木炭が集中している地点4ヶ所に伴い、礫を集めた集石遺構、そして、なんらかに利用したと思われる土の穴がみつかりました。旧石器時代のひとびとの活動の痕跡がわかる例は少なく、貴重な発見でした。ちなみに、ここでみつかった木炭を、放射性炭素年代測定法という理化学的な方法で、年代を測定してみると、約3万2千年前という結果がでました。これは石器の製作技法から推定した年代とほぼ一致するものです。

縄文時代

縄文時代早期から縄文時代晩期までの各時期を代表する土器が見つかり、断続的にではありますが、縄文時代の長い期間を通して、この石の本の地を、ひとびとが生活の場としていたことがわかります。

遺構として特徴的なものに、早期の集石遺構があります。これは、穴の中に河原石を詰めたもので、焼けた跡があることから石を熱して利用したが¹であると考えられています。

さらに、後期末から晩期のはじめ（約3,000年前）頃の時代の住居跡が、多数、発掘されました。住居のならび方や、住居が時期ごとに少しづつ移動していく様子などがわかり、集落の構造まで論じができる貴重な例となりそうです。

同じ晩期の遺構として、地面を掘りこんで土器を埋めた埋設土器が、上に土器をかぶせた完全な状態で発見されました。これは、乳幼児用の棺あるいは重要なものを納める容器であると想定されています。

磨石・石皿・石鏃などの出土した石器の組合せからも、当時の生活を振り返ることができます。また、完全な状態としては県内で初めて出土した块状耳飾などの装身具や、土偶などからも彼らの豊かな生活の息吹が聞こえてきそうです。

古代以降

正確な時期は不明ですが、ひとびとが通った道路のあとや、種イモを貯蔵したイモ穴なども発掘されました。



石の本遺跡全景（小山山より望む）



縄文時代の住居跡



縄文時代の埋設土器



縄文時代のアクセサリー（玦状耳飾・勾玉）

ヲスギ遺跡

所在地 鹿本郡植木町滴水字ヲスキ
調査面積 約1,420m²
調査期間 平成6年10月～平成7年3月

ヲスギ遺跡は、植木町中心街の西方約3kmのところにある大和丘陵の西北端にあり、遺跡の直下を鹿児島本線の田原坂トンネルが通っています。県道熊本鉢麦線改良工事に伴い、調査を開始しましたが、現在までのところ縄文時代と弥生時代の遺構と遺物が見つかっています。

縄文時代のものは、後期から晩期にかけての土器多数と石鎌、石斧、石鑿、打製石斧などの石器が見つかっており、後期の三方田式土器の時期の土壙（穴）からは、土器片と共に土偶も出土しています。また、晩期後半の突堤文土器と共に本州から持つてこられたと考えられる土器（写真参照）も見つかっており、縄文時代の交流を知る上で重要な資料と考えられます。

弥生時代のものは、後期の竪穴住居跡が2基見つかっています。ベッド状遺構を持つ長方形の住居跡で、稲の穂を摘む石包丁が出土しました。集落はかなりの範囲に広がっているようで、集落を囲んでいた環濠も一部確認されているので、この地域の拠点（中心となる）集落ではなかったかと推定されます。

この遺跡は、今後の調査でさらに解明が進むものとみられます。



縄文時代晩期土器出土状況

かわくば 川久保遺跡

所在地 菊池郡菊陽町大字川久保
調査面積 約500m²
調査期間 平成7年3月

川久保遺跡は、国体関連道路の建設に伴って調査を行いました。

遺跡は、東西方向に流れている白川の右岸丘陵上に位置し、川との比高差が5mほどあります。

調査の結果、約500m²の調査区のなかから弥生時代後期の住居跡が5軒見つかりました。このうち、1号住居跡と2号、5号住居跡は切りあった状態で見つかりました。これらの住居跡からは、約700点ほどの土器や石器などの遺物が出土しました。

この遺物のなかには、ほぼ完全な形でジョッキのような形をした土器や鉢形土器が数点、見つかっています。

また、住居跡はすべて西側の調査区外に延びていることから、当時の集落は西側に広がっていたものと考えられます。



にしかたまち
西片町遺跡

所在地 八代市西片町
調査面積 約2,100m²
調査期間 平成6年6月～9月

西片町遺跡は新八代総合庁舎の建設に先だって調査された、水田の下に埋もれていた低湿地にある遺跡です。

今回の調査で、古墳時代前期の集落の一部と水路が確認されました。

集落では鉄の道具が作られていたようで、鍛冶道具の部品の「ふいご」や鉄の不純物も見つかりました。また作りかけの斧の柄や木の道具を作り削った木くずもたくさん見つかったことから、集落では道具づくりの場所があったようです。

しかしその集落も、南にある球磨川の洪水でその大部分が押し流されて、北側からは多くの土器や木製品が、流された土砂と一緒に出土しました。

低湿地の遺跡では、いろいろな物が腐らずに残されているため、当時の生活を良く知ることができます。ヤマモモ、ケヤキ、クリなどの材木や、オニグルミ、エゴノキ、イチイガシの種子も見つかりました。



木製斧柄の出土の様子



出土した古墳時代の土器

とうち
頭地1遺跡

所在地 球磨郡五木村頭地宇田口
調査面積 約7,000m²
調査期間 平成6年4月～平成7年3月

川辺川ダム建設に伴い、平成6年度より調査を継続している頭地1遺跡は、縄文時代早期を中心として、縄文時代前期・後期、古墳時代、平安時代の遺物も出土する大遺跡です。川辺川本流と五木小川が合流する地点の東側の山の中腹の平坦地に、縄文時代早期の多量の土器、石器とともに、本年度は石窯の炉が発見されました。本遺跡では、焼けた石の集まった遺構はたくさん見つかっていますが、はっきりと炉と判断できるものはこの1例だけです。

底に平たい石を置き、6方向に花弁状に石を配置し、火を受けて赤くなった部分がはっきりと分かります。球磨・人吉地域でも発見例の少ない貴重なものです。炉の石材は移転復元が可能なように記録を残し保管しています。



遺跡遠景



17号遺跡（石窯）

平成6年度に調査した遺跡

No.	遺跡名	所在地	事業名	調査期間	成果
1	柳町	玉名市河崎	国道	H6.8~H7.3	集落・短甲・木製品(古墳一前)、杭列・土器(弥)
2	龟尾城跡	菊池郡七城町龟尾	県道	H6.11~12	遺物散布地(古代~中世)
3	ヲスギ	鹿本郡植木町滴水	県道	H6.10~H7.3	土器・石器(縄一後~晩)、住居跡(弥一後)
4	鞠智城跡	鹿本郡菊鹿町米原	史跡整備	H6.4~12	礫石建物跡(奈良~平安)
5	水古屋敷	菊池郡泗水町永	園場整備	H6.2~8	掘立柱建物跡、井戸、石塔(中世)
6	錦野・上揚	菊池郡大津町錦野	園場整備	H6.9~H7.3	遺物散布地(漢文)、炮跡(平安)
7	川久保	菊池郡菊陽町久保田	県道	H7.3	豊穴住居跡(弥一後)
8	古池さん	阿蘇郡西原村小森	県道	H6.8~9	遺物散布地(縄一早・中)
9	二木木前	阿蘇郡白木村中松	園場整備	H6.5~H7.1	推定阿蘇南郷大宮司館跡、寺院跡(中世)
10	石の本	熊本市平山町	国体主会場	H6.4~H7.3	旧石器・住居跡(縄一後~晩)
11	万葉寺出口	熊本市万葉寺町	農村環境整備	H6.4~H7.1	集落・配石遺構(弥一中)
12	山海道	熊本市万葉寺町	農村環境整備	H7.1~3	集落・土偶・勾玉・玉(縄一後・晩)
13	山ノ神	熊本市龍田町上立田	国道	H7.1~3	円墳・箱式石棺(古墳)
14	迫ノ上	熊本市龍田町上立田	国道	H6.4~9	集落(古墳)、押型文土器(縄一早)
15	陣山	熊本市水前寺公園	能本テルサ	H6.5~H7.3	集落・掘立柱建物跡、溝、墨書き土器・帶金具(平安)
16	畜業試験場	熊本市水前寺6丁目	県庁第2庁舎	H6.4~12	道路跡・豊穴住居跡、掘立柱建物跡(平安)
17	古閑北	上益城郡益城町福富	産業展示場	H6.4~H7.3	豊穴住居跡、円形周溝遺構(縄)、溝(中世)
18	西片町	八代市西片町	県総合庁舎	H6.6~9	集落・水路、ふいご、木製品(古墳一前)
19	頭地1	球磨郡五木村頭地	川辺川ダム	H6.4~H7.3	遺物散布地(縄一早・前・後、古墳、平安)
20	灰塚	球磨郡深田村	畠	H6.4~H7.3	掘立柱建物跡(弥・中世) 土墳墓(中世)



凡例

成果の時期は次の通り。

- 旧石器時代……旧
- 縄文時代……早期~晚期…縄一早・前・中・後、晩
- 弥生時代……前期~後期…弥一前・中・後
- 古墳時代……前期~後期…古墳一前・中・後
- 奈良時代……奈良
- 平安時代……平安
- 中世……中世
- 近世…近世

編集後記

平成7年度も県内各地で文化財調査が行われています。この成果についても次号以降で取り上げていきたいと思います。このパンフレットをはじめ、文化財全般についてのご質問、ご意見等がございましたら、ご遠慮なく県文化課までご連絡ください。お待ちしています。

第11号

平成8年3月31日 発行
発行 熊本県教育庁文化課
熊本市水前寺6丁目18番1号
☎096-383-1111(内6716)
印刷 弘栄印刷(株)

07教委教文

③ 007